

第5回認定 神戸歴史遺産

2026年2月1日に5件を認定しました。

19. ^{すずきしょうてん}鈴木商店 ^{かん}に関する ^{れきししりょう}歴史資料

鈴木商店は、1874（明治7）年に洋糖引取商として「神戸辰巳屋 鈴木商店」として創業したのがはじまりで、製造業や貿易業によって神戸のみならず明治・大正期の日本の産業を牽引しました。大正期には日本一の総合商社と称されるも、1927（昭和2）年の金融恐慌により事業を停止しました。認定資料は大番頭金子直吉がロンドン駐在の部下に送った書簡「天下三分の宣誓書」や当時の法被・暖簾等です。



鈴木商店暖簾

20. ^{かいぐんえいのひ}海軍營之碑 ^{ふくひ}及び 副碑

1864（元治元）年5月、生田川河口付近に神戸海軍操練所が開設されたことを記念して同年10月、勝が自ら設置した石碑が「海軍營之碑」です。しかし、同年11月海軍操練所は閉鎖され、勝は神戸村庄屋生島四郎太夫にこの碑を託し、生島は奥平野村の別邸にこの碑を保管していました。1915（大正4）年、神戸市に寄贈され諏訪山金星台に再建されました。その際、大石に嵌め込まれ、碑の経緯を記した副碑も添えられました。



海軍營之碑（右）と副碑（左）

21. ^{さかもといつくしまじんじゃ}坂本 巖島神社 ^{ほんでん}本殿

巖島神社の創建は不詳ですが、丹生山水系を守護するために祀られたといわれています。当初は丹生山への参詣道沿いに位置していましたが、現在の参道からは離れた場所に位置します。一間社柿葺き春日造で、木鼻など細部に装飾的な意匠が見られます。境内には1770（明和7）年銘の鳥居と灯籠があり、そのころの創建の可能性がありません。



坂本巖島神社 本殿

22. ^{さかもといつくしまじんじゃ}坂本 巖島神社 ^{ぶたい}舞台 (長床)

坂本巖島神社にはかつて上記本殿に対峙して回り舞台を備えた舞台があり、明治30年代までは芝居興行が行われていたとの記録があります。1915(大正4)年には舞台は長床に改築されましたが、この長床も1918・1919(大正7・8)年頃には解体されました。現在の舞台(長床)はその跡に大正年間に建てられたものと伝わっています。



坂本巖島神社 舞台(長床)

23. ^{じゅうりんいん}十輪院 ^{ほんどう}本堂

北区淡河町神影の古刹石峯寺にはかつて多数の塔頭があったと伝わり、十輪院はその参道に並んでいた塔頭の一つです。本堂は桁行20.8m、梁間9.4mの平入入母屋造の建物で、屋根は茅葺ですが現在トタンが被せられています。内部の間取りは六間取りの方丈に角屋を北側に接続した形で、建築当初の形態がよく残っています。建築年代は19世紀中期頃と考えられます。



十輪院 本堂